

Cisco CallManager サーバでの CDR データベースの再作成

目次

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[表記法](#)

[背景説明](#)

[Cisco CallManager サーバでの CDR データベースの再作成](#)

[確認](#)

[トラブルシューティング](#)

[関連情報](#)

概要

このドキュメントでは、CDR データベースが削除されたときに、Cisco CallManager サーバで Call Data Records (CDR) データベースを再作成する方法について説明します。CDR データベースが削除されている間に、CDR プラグインを実行しようとする、データベースが存在しないというメッセージを受信します。

前提条件

要件

このドキュメントの読者は、次の項目の知識を持っていることが推奨されます。

- CDR Analysis and Reporting
- Cisco CallManager の管理
- SQL データベースの管理

使用するコンポーネント

このドキュメントの情報は、Cisco CallManager 3.3 以降に基づくものです。

本書の情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されたものです。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、初期 (デフォルト) 設定の状態から起動しています。稼働中のネットワークで作業を行う場合、コマンドの影響について十分に理解したうえで作業してください。

表記法

ドキュメント表記の詳細は、『[シスコ テクニカル ティップスの表記法](#)』を参照してください。

背景説明

[CDR Enabled Flag] (Cisco CallManager サービス パラメータ) により CDR 収集が有効になっている場合、コールが完了すると Cisco CallManager がサブスクリバ サーバのフラット ファイルに CDR を書き込みます。Cisco Database Layer Monitor サービスは CDR ファイルをサブスクリバからパブリッシャ サーバ (または設定されているサーバ) に定期的に移動し、Cisco CDR Insert Service が、設定されている CDR データベースにレコードを挿入します。[CDR データベースが削除されている](#)場合は、このドキュメントで説明する手順に従ってデータベースを再作成する必要があります。

Cisco CallManager サーバでの CDR データベースの再作成

Cisco CallManager サーバで CDR データベースを再作成するには、次の手順を実行します。

1. [Start]、[Programs]、[Microsoft SQL Server]、[Query Analyzer] の順に選択します。
2. Cisco CallManager サーバ (ローカル サーバ) にログインします。正しいデータベース サーバから Query Analyzer を実行していることを確認します。注: Cisco CallManager 3.x では、SQL サーバ認証を選択し、ユーザ名とパスワードを入力します。注: Cisco CallManager 4.0 以降では、Windows NT 認証を選択します。Windows NT 認証は推奨されず、がシステム 支援 SQL 認証。リリース 4.0 以降の混合モード認証用の Cisco CallManager の設定はサポートされません。以前のバージョンからアップグレードした Cisco CallManager 4.x サーバで SQL Server 認証を使用するとエラーになるため、システムを Windows NT 認証に戻す必要があります。詳細については、[Cisco CallManager 3.x から 4.x へのアップグレード後に SQL Query Analyzer にログインできないユーザ](#)を参照してください。
3. [Query Analyzer] ウィンドウから、メインの [SQL Query Analyzer] ウィンドウに移動して、[File] > [Open] の順に選択します。C:\Program Files\Cisco\Bin\CDR.sql を開き、[Query]、[Execute] の順に選択してクエリを実行します。ツールバーの緑色の矢印をクリックし、F5 を押してクエリを実行することもできます。これにより、CDR データベースが作成されます。
4. SQL Enterprise Manager に移動し、[Microsoft SQL Servers]、[SQL Server Group]、[local]、[Databases]、[CDR]、[Users] の順に選択します。次に、[New Database User] を右クリックして選択します。
5. [Login name] プルダウン メニューから [CiscoCCMCDR] をクリックし (CiscoCCMCDR がまだ存在しない場合のみ)、[public] および [db_owner] がチェックされていることを確認します。
6. Cisco CallManager サーバを再起動します。
7. [CDR Enabled flag] が有効であることを確認するため、次の手順を実行します。[Cisco CallManager Administration] ウィンドウで、[Service] > [Service Parameters] を選択します。[Server] でご使用の CallManager を選択し、[Service] で [Cisco CallManager] を選択します。[Service Parameters] ウィンドウで [System] > [CDR Enabled Flag] を選択し、このパラメータを [True] に設定します。[Update] をクリックします。詳細については、「[CDR サービスパラメータの設定](#)」を参照してください。

8. パブリッシャ サーバとサブスクリイバ サーバですべての Cisco CDR サービスが実行中であることを確認するため、次の手順を実行します。[Start] > [Programs] > [Administrative tools] > [Services] を選択します。[Cisco CDR Analysis and Reporting Scheduler] サービスと [Cisco CDR insert] サービスが開始していることを確認します。開始していない場合は、これらのサービスを選択して [Start Service] をクリックし、サービスを開始します。
9. Cisco Database Layer Monitor サービスを再起動し、パブリッシャとサブスクリイバ間でレプリケーションが行われるかどうかを確認するため、次の手順を実行します。[Start] > [Programs] > [Administrative tools] > [Services] を選択します。[Cisco Database Layer Monitor Service] を選択します。[Stop Service] をクリックして、サービスを停止します。[Start Service] をクリックして、再度サービスを起動します。

確認

エラーメッセージが表示されることなく CDR プラグインを実行できるはずです。

トラブルシューティング

現在のところ、この設定に関する特定のトラブルシューティング情報はありません。

関連情報

- [Cisco CallManager で SQL クエリを使用したコール詳細レコードの検索](#)
- [ロケーションに関連付けられたデバイス検索のために SQL Query Analyzer を使用する方法](#)
- [CDR および ART FAQ に関する CallManager 問題のトラブルシューティング](#)
- [CDR Analysis and Reporting](#)
- [音声に関する技術サポート](#)
- [音声と IP 通信製品サポート](#)
- [Cisco IP Telephony のトラブルシューティング](#)
- [テクニカル サポートとドキュメント – Cisco Systems](#)